

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-083740

(43)Date of publication of application : 25.03.1994

(51)Int.Cl.

G06F 13/00

G06F 15/16

(21)Application number : 04-233762

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22)Date of filing : 01.09.1992

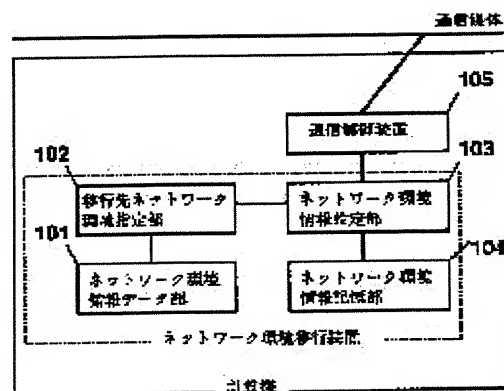
(72)Inventor : IMAGAWA KAZUYUKI
KOBAYASHI HISAKAZU

(54) DEVICE FOR TRANSFERRING NETWORK ENVIRONMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a network environment transferring device capable of setting up the transfer of a computer from one network to the other network only by specifying a network to be transferred even if an operator does not know the network environment information of the network to be transferred.

CONSTITUTION: A computer stores the network environment of each network to be transferred in a network environment data part 101. In the case of transferring the computer from one network to the other network, the network environment of the network to be transferred is specified by a transferred network environment specifying part 102. Then a network environment information setting part 103 sets up the specified network environment on the computer based on the network environment information stored in the data part 101. Finally a network environment information storing part 104 stores the set network environment information.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-83740

(43)公開日 平成6年(1994)3月25日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	弁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 13/00	3 5 5	7368-5B		
15/16	4 0 0 D	9190-5L		

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 10 頁)

(21)出願番号 特願平4-233762

(22)出願日 平成4年(1992)9月1日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 今川 和幸

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 小林 久和

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

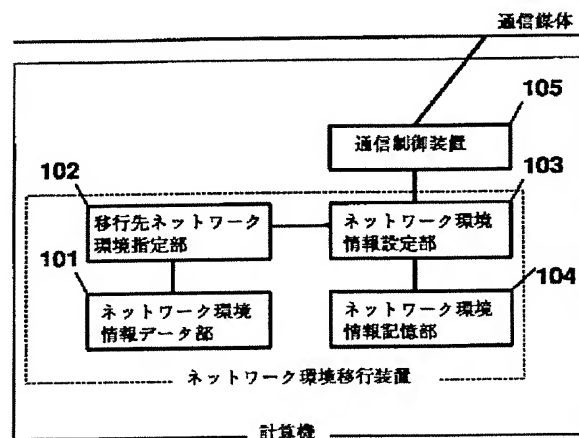
(74)代理人 弁理士 中島 司朗

(54)【発明の名称】 ネットワーク環境移行装置

(57)【要約】

【目的】 計算機を一のネットワークから他のネットワークへ移行する際に、オペレータが移行先のネットワーク環境情報を知らなくても、どのネットワーク上に移行するかを指定するだけで設定可能とするネットワーク環境移行装置を提供する。

【構成】 計算機が移行するネットワーク毎にそのネットワーク環境情報をネットワーク環境情報データ部に保存しておく。計算機を一のネットワークから他のネットワークへ移行する際には、その移行先のネットワークのネットワーク環境を移行先環境指定部により指定する。次に、この指定されたネットワーク環境をネットワーク環境情報設定部がネットワーク環境情報データ部に保存されているネットワーク環境情報をもとに計算機上に設定する。最後に、前記ネットワーク環境情報設定部がこの設定されたネットワーク環境情報を記憶する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 一のネットワークに接続している計算機を他のネットワークへ移行する際に、ネットワーク上に計算機を接続するための情報であるネットワーク環境毎のネットワーク環境情報を保存しておくネットワーク環境情報データ部と、

前記ネットワーク環境情報データ部にあるネットワーク環境の中から移行先となる第 2 のネットワーク環境を指定する移行先ネットワーク環境指定部と、

前記移行先ネットワーク環境指定部によって指定したネットワーク環境に対応した前記ネットワーク環境情報データ部に保存されているネットワーク環境情報を計算機上に設定するネットワーク環境情報設定部と、

前記ネットワーク環境情報設定部が計算機上に設定したネットワーク環境情報を記憶するためのネットワーク環境情報記憶部とを有することを特徴とするネットワーク環境移行装置。

【請求項 2】 ネットワーク環境移行装置は更に、ネットワーク環境情報を入力するネットワーク環境情報入力部と、

前記ネットワーク環境情報記憶部に記憶されている移行前のネットワークのネットワーク環境情報をネットワーク環境情報データ部に追加保存するネットワーク環境情報収集部とを有し、

かつ前記ネットワーク環境情報設定部は前記ネットワーク環境情報データ部に保存されているネットワーク環境情報に加えて更に前記ネットワーク環境情報入力部から入力されたネットワーク環境情報をも計算機上に設定する構成であることを特徴とする請求項 1 記載のネットワーク環境移行装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、ネットワーク環境下で動作する計算機に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年 LAN (Local area network) や WAN (Wide area network) のような高速通信媒体の普及により、ネットワーク上で使用する計算機のシステムが広く利用されている。その代表的な例として UNIX ワークステーションがある。さて、この UNIX ワークステーションでは、今までの大型計算機とその端末といった関係とは違い、それぞれの WS が相互にやりとりしながら仕事を行うといった分散志向のコンピュータ環境を構築している。そのようなネットワークでは、次のような機能が提供される。

【0003】 1) 電子メール、電子掲示板

電子メールとはコンピュータのユーザ間でメッセージのやりとりを行う機能である。また、電子掲示板とはユーザからのメッセージを新聞や、広告のようにみんなで見ることができるような機能である。

2

2) ファイル転送、リモートログイン

それぞれの WS 間のファイル転送を行ったり、違う WS から自分の WS へログインしたりできる機能である。

【0004】 3) 分散処理機能

ネットワークに接続された計算機を効果的に利用するために、自動的に他の WS の磁気ディスクに納められている情報を参照したり、アプリケーションを利用したりできる機能や、自動的に他の WS と仕事を分けあい、コンピュータの負荷を分散させたり、プリンタを共有したりするような機能である。

【0005】 ところで、以上のような機能を利用するためには、あらかじめ利用のための登録を行わなければならない。その利用のために必要な登録情報 (管理情報) としては、例えば、ホスト名、ユーザ名、NIS ドメイン名、タイムゾーン…などが挙げられる。なお、ここに、NIS (Network Information Service) とは、上記の利用のために必要な登録情報を 1 つのデータベースとして管理し、そのデータベースを各 WS から参照できるようにしたものである。別名 YP (イエローページ) と呼ばれている。

【0006】 NIS ドメインとは、NIS がネットワーク内に複数ある場合、どの NIS を使用するかを各 NIS がもつ名前 (ドメイン名) によって管理するものである。そして、このドメイン名を利用する WS に登録した場合には、その WS は NIS の情報を参照することができるようになる。タイムゾーンとは、WS は時計をもっているが、その時計をうまく機能させるために必要な概念である。タイムゾーンとは地球のどこの時間帯にこの WS が存在しているかという情報である。例えば、USA のある地域を指定した場合、夏になると時計が自動的にサマータイムになったりするようなことができる。なお、これらについては、例えば村井 純、砂原 秀樹、横手 靖彦 共著「UNIX ワークステーション I (基礎技術編)」アスキー出版 1987 年 12 月発行に詳しい。

【0007】 しかしながら、そのような計算機を他のネットワークに移行して上記のような機能を発揮することを目的として使用する場合には、オペレータが手作業によって移行のための作業、すなわち利用先と自分の WS の 2 つに上記のコンピュータ環境の登録を行わなければならない。図 6 は、従来の通信媒体を介して通信を行っている計算機のネットワーク環境移行装置の構成図である。図中、601 はネットワーク環境情報入力部で、ネットワーク上に計算機を設定するための情報であるネットワーク環境情報を入力するものである。602 はネットワーク環境情報設定部で、前記ネットワーク環境情報入力部 601 で入力されたネットワーク環境情報を計算機に設定するものである。603 はネットワーク環境情報記憶部で、前記ネットワーク環境情報設定部 602 で設定された情報を記憶するものである。以上が、従来の

3

ネットワーク環境移行装置の構成である。なお、この他に構成図には通信制御装置 604 があるが、これは通信媒体を介して他の計算機等との通信をする際、その通信を制御するものである。

【0008】前述のように構成された従来のネットワーク環境移行装置の動作のうち、新規に計算機をネットワーク上に設定する際の動作を以下に説明する。まず、オペレータは計算機を新規にネットワーク上に設定するため、ホスト名、ネットワークアドレス、NISドメイン名、タイムゾーン等のネットワーク上で計算機を使用するために必要な情報を、ネットワーク環境情報入力部 601 を用いて入力する。前記操作によって入力された情報をもとにして、ネットワーク環境情報設定部 602 は、その情報を計算機に設定する。そして、ネットワーク環境情報記憶部 603 は設定された情報を記憶する。以上の結果、この計算機はネットワーク上に設定され、通信制御装置 604 を通して、他システムとの通信が行われるようになる。

【0009】さて、次にこの計算機を他のネットワークに移行する場合の操作について説明する。まず、計算機を第 1 のネットワークから取り外し、第 2 のネットワークに接続する。次にオペレータは前述の新規に計算機をネットワーク上に設定する場合と同様、第 2 のネットワーク上に計算機を設定するために必要な情報をネットワーク環境情報入力部 601 を用いて入力する。前記操作によって入力された情報をもとにして、ネットワーク環境情報設定部 602 は、その情報を計算機に設定する。そして、ネットワーク環境情報記憶部 603 は設定された情報を記憶する。以上の結果、この計算機は、第 2 のネットワーク上に移行され、通信制御装置 604 を通じて他システムとの通信が行われるようになる。また、この時点で計算機が第 1 のネットワークで動作するためのネットワーク環境情報は失われる。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、以上説明したように、従来技術に係るネットワーク環境情報の設定では第 2 のネットワークへ移行する場合にも、オペレータは新規に第 1 のネットワーク上に設定する場合と同様、全ての環境設定作業を手作業で必ず行わなければならない。このため、移行先が多数存在する場合には、どのネットワークではどういったネットワーク環境情報を使用するかということを、オペレータは常に把握しておかなければならない。しかしながら、ネットワーク設定作業中に錯覚などがあり得、このため違うネットワークの環境情報を設定してしまい、ひいては、相手側のプログラムの破壊やハードの損傷等自分のみならずネットワークそのものにまで重大な障害を生じさせる危険性も皆無ではなかった。また、オペレータが計算機のネットワーク設定について十分な知識がない場合には、ネットワーク設定時に入力ミスを生じかねない。また、第 2 の

4

ネットワークに移行してしまった場合には、第 1 のネットワークのネットワーク環境情報が失われるため、第 1 のネットワークへ再び移行した場合にあらためて第 1 のネットワーク上に設定する必要があるため、再度第 1 のネットワークへ接続する可能性があるときには、オペレータは自分で第 1 のネットワーク環境情報を把握しておかなければならなかった。

【0011】ところで、LANやWANを利用するUNIXワークステーションでは、オペレータが従事する作業そのものが複雑、抽象的な上、各ネットワーク固有の利用プログラムやデータ等もあるため、これらとの関係をも理解した上で複雑なネットワーク環境情報を常時把握しておくのは、手順書や各種データブックの保管ひとつとっても、言うは易くして実際は非常に困難である。更に、今後広く使用が予想される端末自身が移動体（船舶、航空機）に搭載された上で移動し、ネットワーク環境と通信回線はもとより無線を介して接続されるようなシステムにおいては、移動が煩雑なだけでなくオペレータの操作作用の手順書等も併せて移動する必要があるため、この困難性は一層増大する。

【0012】本発明は、以上説明した従来技術に係るネットワーク環境移行装置が有していた問題点に鑑みなされたものであり、その目的は、第 1 に、オペレータが移行するネットワークを指定するだけでそのネットワーク環境の設定が可能なネットワーク環境移行装置を提供すること、第 2 に、元のネットワークへ再度移行する場合、その指定を行うだけで再度同じネットワーク環境を設定することが可能なネットワーク環境移行装置を提供することの 2 つにある。

【0013】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、請求項 1 の発明においては、一のネットワークに接続している計算機を他のネットワークへ移行する際に、ネットワーク上に計算機を接続するための情報であるネットワーク環境毎のネットワーク環境情報を保存しておくネットワーク環境情報データ部と、前記ネットワーク環境情報データ部にあるネットワーク環境の中から移行先となる第 2 のネットワーク環境を指定する移行先ネットワーク環境指定部と、前記移行先ネットワーク環境指定部によって指定したネットワーク環境に対応した前記ネットワーク環境情報データ部に保存されているネットワーク環境情報を計算機上に設定するネットワーク環境情報設定部と、前記ネットワーク環境情報設定部が計算機上に設定したネットワーク環境情報を記憶するためのネットワーク環境情報記憶部を備えたことを特徴とするネットワーク環境移行装置としている。

【0014】請求項 2 の発明においては、ネットワーク環境移行装置は更に、ネットワーク環境情報を入力するネットワーク環境情報入力部と、前記ネットワーク環境情報記憶部に記憶されている移行前のネットワークのネ

5

ネットワーク環境情報をネットワーク環境情報データ部に追加保存するネットワーク環境情報収集部とを有し、かつ前記ネットワーク環境情報設定部は前記ネットワーク環境情報データ部に保存されているネットワーク環境情報に加えて更に前記ネットワーク環境情報入力部から入力されたネットワーク環境情報をも計算機上に設定する構成であることを特徴とする請求項1記載のネットワーク環境移行装置としている。

【0015】

【作用】上記構成により、請求項1の発明においては、一のネットワークに接続している計算機を他のネットワークへ移行する際に、ネットワーク環境情報データ部に保存されている他のネットワーク環境のネットワーク環境情報を移行先ネットワーク環境指定部が指定する。ネットワーク環境情報設定部が該ネットワーク環境情報を計算機に設定する。ネットワーク環境情報設定部が設定したネットワーク環境情報をネットワーク環境情報記憶部に保存する。

【0016】請求項2の発明においては、一のネットワークに接続している計算機を他のネットワークへ移行する際に、ネットワーク環境情報記憶部に保存されている移行前のネットワークのネットワーク環境情報をネットワーク環境情報データ部に追加保存する。

【0017】

【実施例】以下、本発明に係るネットワーク環境移行装置の実施例を図面を用いて説明する。

(第1実施例) 図1は請求項1の発明に係るネットワーク環境移行装置の一実施例の構成図である。本図において、101は磁気ディスクよりなるネットワーク環境情報データ部であり、ネットワーク上に計算機を設定するための情報であるネットワーク環境情報をCRT、キーボード等を使用してのオペレータによるあらかじめの登録操作のもとネットワーク環境毎に保存する。102はCRT、キーボード等をも構成要素とする移行先ネットワーク環境指定部であり、計算機を設定するネットワーク環境がいかなるものかをネットワーク環境情報データ部101の中から指定するものである。103はネットワーク環境情報設定部であり、ネットワーク環境情報をあらかじめ本ネットワーク環境移行装置の提供者により提供されたプログラムの手順に従って計算機に設定するものである。ただし、この設定プログラムやハードは、従来ネットワーク環境の移行の際にオペレータがいちいち手動で操作していた手順を、オペレータによる移行先ネットワーク環境指定部102でのキーボード操作を契機として自動設定するものであり、ハード面、ソフト面ともプログラム技術等の進歩した今日特に困難はない。すなわち、例えば自動式洗濯機がその電源が50サイクルか60サイクルかを操作者により指定されたなら、あとはいずれのサイクルであれプログラムに従って所定の各種操作をなす、ワードプロセッサが操作者によるか

6

な入力か英字入力かの指定の後、所定のプログラムによって日本文章を表示するようなことと原理的には異ならない。また、ハード面についても、軽量小型というより事実上ゼロ重量、ゼロ容積かつ安価に構成しえる。このため、その説明は省略する。104はネットワーク環境情報記憶部であり、前記ネットワーク環境情報設定部103が設定した情報を内蔵の磁気ディスクに記憶した上で、計算機の計算に供するものである。以上が、本実施例のネットワーク環境移行装置の構成部である。なお、105は通信制御装置であり、通信媒体を介して他システムとの通信をする際に、その通信を制御するものである。

【0018】次に、以上のように構成された本実施例のネットワーク環境移行装置についてその動作を説明する。オペレータが図2に示すように、計算機を3つのネットワークA、B、C上を移行して使用する場合を考える。ここで、ネットワークA、B、Cは、それぞれネットワーク環境A、B、Cとする。今、ネットワーク環境情報データ部101には、それぞれのネットワークに対応するネットワーク環境情報が図3に概念的に示すような形であらかじめ登録されている。ここで、ネットワーク環境情報とは、この計算機をネットワーク上に設定するために必要な情報であり、例えば、ホスト名、ネットワークアドレス、NISドメイン名、タイムゾーン等であり、これは従来技術に係るものと異ならない。このネットワーク環境情報データ部101に保存されているネットワーク環境情報は移行先ネットワーク環境指定部102がどのネットワークを使用するかを指定することにより、そのネットワーク環境を使用するために必要なネットワーク環境情報を参照できる。

【0019】今、計算機をネットワーク環境Aからネットワーク環境B上に移行するとする。その場合、まず、移行先ネットワーク環境指定部102を用いてネットワーク環境情報データ部101のネットワーク環境Bを指定する。すると、ネットワーク環境情報データ部101は、ネットワーク環境Bのネットワーク環境情報を前記移行先ネットワーク環境指定部102を通じてネットワーク環境情報設定部103へ送る。ネットワーク環境情報設定部103はその情報をもとにして計算機をネットワーク上に設定し、その設定した内容をネットワーク環境情報記憶部104に記憶し、計算機の計算処理に応じた使用に供する。その結果、通信制御装置105を介して、ネットワーク上の他システムと通信ができるようになる。

【0020】次に、本実施例のネットワーク環境移行装置を用いた、他の応用例について説明する。本実施例においては、ネットワーク環境を指定するだけで計算機をネットワーク非使用状態に設定することが可能となる。図3に示すように、ネットワーク非使用状態を設定するためのネットワーク環境情報はネットワーク非使用状態

7

を選択することによって容易に得られる。その場合、オペレータは移行先ネットワーク環境指定部102を用いてネットワーク環境情報データ部101のネットワーク非使用状態を指定する。すると、ネットワーク環境情報データ部101は、ネットワーク環境非使用状態のネットワーク環境情報を前記移行先ネットワーク環境指定部102を通じてネットワーク環境情報設定部103へ送る。ネットワーク環境情報設定部103はその情報をもとにして計算機をネットワーク上に設定し、その設定した内容をネットワーク環境情報記憶部104に保存する。その結果、計算機はネットワーク非使用状態に設定される。

(第2実施例) 図4は、請求項2の発明に係るネットワーク環境移行装置の一実施例の構成図であり、先の第1実施例にネットワーク環境情報収集部106及びネットワーク環境情報入力部107を付加したものである。本図において、101から105は基本的には図2の101から105と同じものであるため、同一の図番を付すことにより、その説明は省略する。106は本発明の要部たるネットワーク環境情報収集部であり、ネットワーク環境情報設定部に設定されている環境情報をネットワーク環境情報データ部101に保存するものである。107はネットワーク環境情報入力部であり、新たなネットワーク環境情報に移行するときにこれを計算機に入力し、その内容をネットワーク環境情報設定部103に渡すものである。このため、ネットワーク環境情報収集部106とネットワーク環境情報入力部107は必要なプログラムを格納した磁気ディスク、RAM、CRT、キーボード等にて構成される。

【0021】以下に、以上のように構成された本実施例のネットワーク環境移行装置の動作を説明する。今、図5(a)のように3つのネットワークA、B、C上で使用されていた計算機を新たにネットワーク環境Dであるネットワーク上に設定する。この場合、従来の例と同様、ネットワーク環境Dのネットワーク上に計算機を設定するために必要な情報をオペレータがネットワーク環境情報入力部107を用いて入力し、入力された情報をもとにしてネットワーク環境情報設定部103がその情報を計算機に設定し、設定された情報をネットワーク環境情報記憶部104に記憶する。その結果、計算機はネットワーク環境Dのネットワーク上に設定される。次に、ネットワーク環境Dのネットワークから再びネットワーク環境Aのネットワークに移行するとする。その場合、ネットワーク環境Dのネットワークから計算機を外す際に生じる電磁的信号をもとに、ネットワーク環境情報収集部106は、ネットワーク環境情報記憶部104に記憶されているネットワーク環境情報をネットワーク環境情報データ部101に保存されているものと順次比較し、若し保存されていないならこれをネットワーク環境Dとして保存されているものの最後の欄に自動的に保

8

存する。そして、この保存した内容は、以降ネットワーク環境Dとして移行先ネットワーク環境指定部102によって指定できるよう、ネットワーク環境情報データ部101内のネットワーク環境A、B、Cを格納した磁気ディスクの次の格納欄の位置(もし、図3に示すようにCの次の格納位置欄にネットワーク非使用状態が格納されているならば、その次の格納位置欄)に保存記憶される。なお、このため、ネットワーク環境情報データ部内の磁気ディスクには、あらかじめ図3に示すような表

10 が、オペレータが直接的若しくは間接的に入力する部分(図3で示すなら、ネットワーク環境情報欄の各項目の右半分、上から順に「使用する」、「111、111、111、111」、「使用する」等)を除き、本ネットワーク環境移行装置の提供者により登録されている。また、この際、移行先ネットワーク環境指定部102による指定を可能とすべく、オペレータが保存する移行先ネットワークの環境をCRTに表示させた場合には、以前から記憶されていたネットワーク環境A、B、Cと共にこのネットワーク環境Dも表示される等これに伴う必要な操作も同じく、本ネットワーク環境移行装置の提供者によりあらかじめプログラムされているのは勿論である。このようにして、ネットワークを移行する度に移行直前の登録されていないネットワーク環境情報を新たに追加登録した上で保存していく。その結果、図5(b)に示すように、あらかじめネットワーク環境情報データ部には3つのネットワークしか登録されていないため、3つのネットワーク上の移動しかできなかったものが、4つのネットワーク上を移動しながら使用することが可能となる。

【0022】以上、本発明を実施例に基づき説明したが、本発明は何も上記実施例に限定されないのは勿論である。すなわち、上記実施例においては、移行するネットワーク環境を3つ若しくは4つとして説明を行ったが、これより多くても、逆に少なくともよい。更に、自動設定されたネットワーク環境が何等かの過誤やネットワーク環境側の無断変更等で不整合となっている場合には、計算機システムの使用に先立ちこれを自動検知の上警報を発するような安全機能が付加されていてもよい。ただし、これはUNIXワークステーションのような大規模なものでもなくとも、例えばファクシミリ装置や通常の電子メール装置等極く日常的な機器においても各々国際電信電話諮問委員会のCCITT30やRFC821等の通信規約等にもとづいて広く採用されている技術であるためその説明は省略する。

【0023】次にまた、ネットワーク環境情報データ部、ネットワーク環境情報部のもつプログラムの格納は同一又は別の磁気ディスク、フロッピーディスク、ROM等の場所、種類を問わないのも勿論である。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1の発明に

においては、オペレータはどのネットワーク環境上に計算機を設定するかを指定するだけで、複数のネットワークを自由に移行することができる。従って、複数のネットワーク環境を計算機を移動しながら使用する場合に、どのネットワークではどのようなネットワーク環境情報を使用するかということを、オペレータが把握しておく必要がなく、また設定作用も不必要となる。

【0025】更に、計算機をネットワーク非使用状態に設定する場合にもネットワーク環境を指定するだけでその設定が可能となる。請求項2の発明においては、ネットワーク環境情報データ部に保存されていないネットワークへ移行した場合には、そのネットワーク環境情報を追加保存する。このため、いったん他のネットワークへ移行した後再び上記もとのネットワークへ移行する場合、オペレータはそれを指定するだけでネットワークの移行が可能となる。

【0026】更に、いずれの発明においても、移行作業に伴うオペレータの操作ミス、ひいてはこれに伴う二次的な不都合も防止できる。併せて、端末の計算機自身とその設置された機器に伴って移動するような場合には、移行（動）先のネットワーク環境の設定作業のための手順書等の携帯も不要となる場合が多い。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1の発明の一実施例の構成図である。 *

*（第1実施例）

【図2】上記実施例が移行するネットワーク環境の模式図である。

【図3】上記実施例のネットワーク環境設定情報保存部に格納記憶されているネットワーク環境を概念的に示す模式図である。

【図4】請求項2の発明の一実施例の構成図である。

（第2実施例）

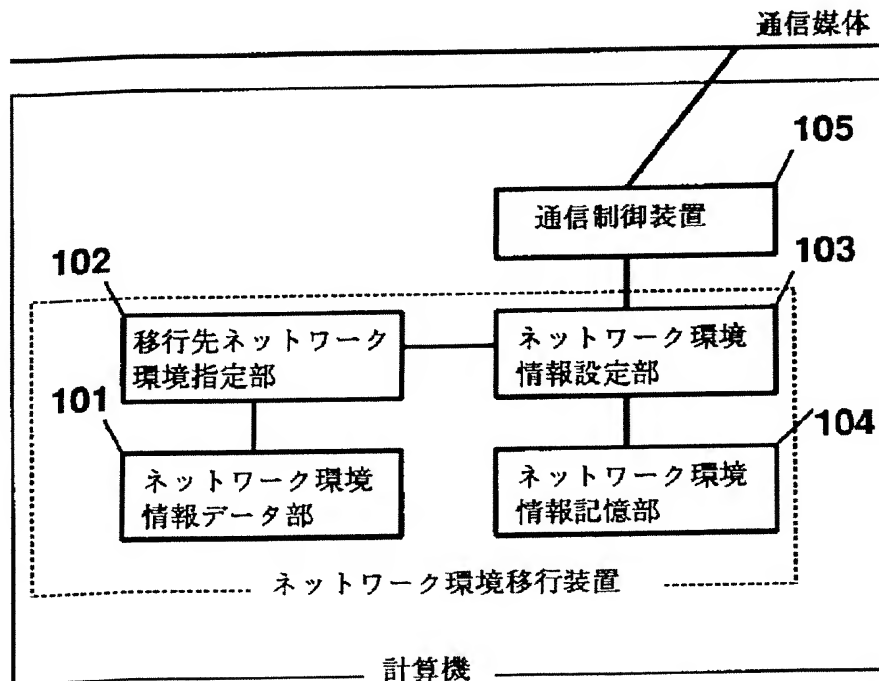
【図5】上記実施例が新たに移行先を増やす場合の過程を示す模式図である。

【図6】従来技術に係るネットワーク環境移行装置の構成図である。

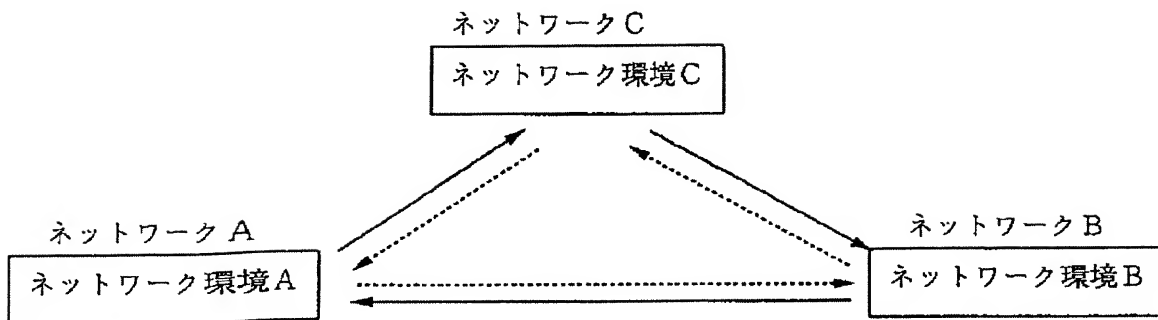
【符号の説明】

- 101 ネットワーク環境情報データ部
- 102 移行先ネットワーク環境指定部
- 103 ネットワーク環境情報設定部
- 104 ネットワーク環境情報記憶部
- 105 通信制御装置
- 106 ネットワーク環境情報収集部
- 107 ネットワーク環境情報入力部
- 601 ネットワーク環境情報入力部
- 602 ネットワーク環境情報設定部
- 603 ネットワーク環境情報記憶部
- 604 通信制御装置

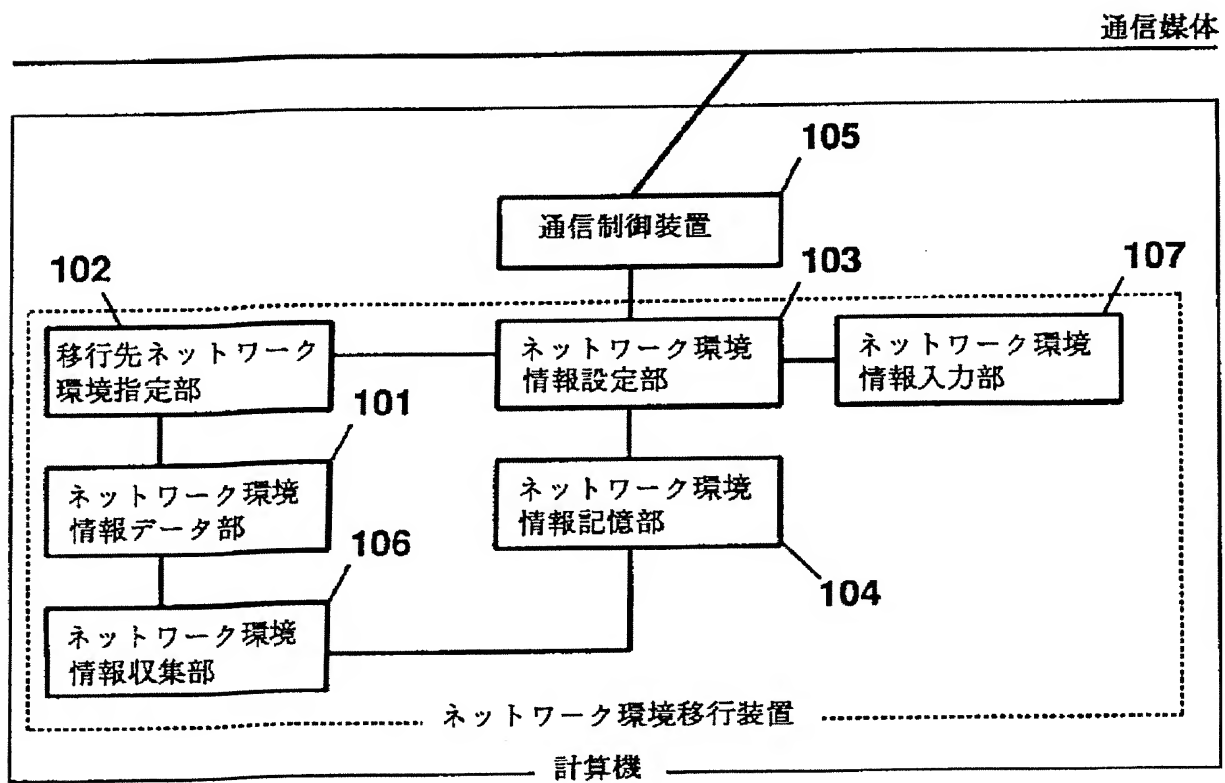
【図1】



【図2】



【図4】

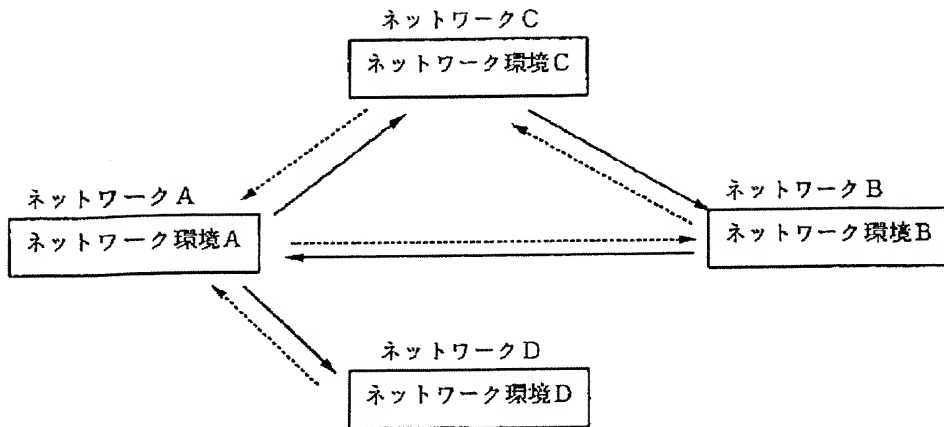


【図3】

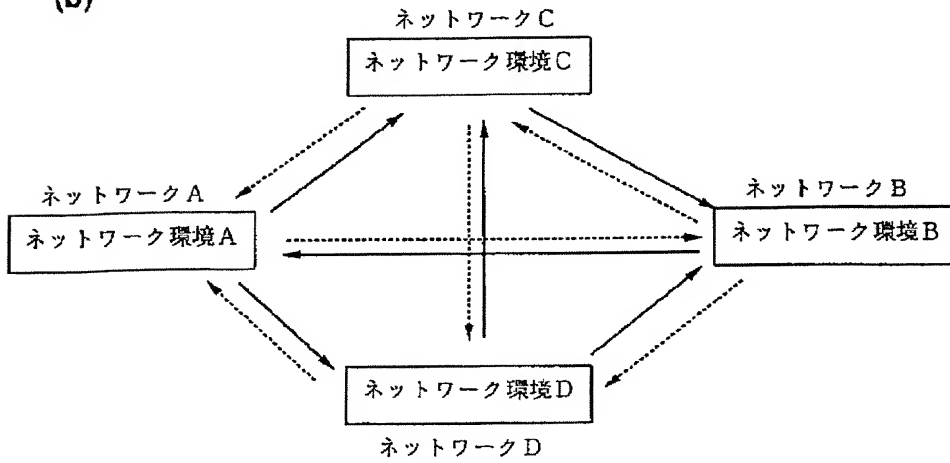
ネットワーク環境	ネットワーク環境情報
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク：使用する ・ ネットワークアドレス：111.111.111.111 ・ NIS：使用する ・ NISドメイン名：adomain ・ タイムゾーン：日本 ・ ユーザ設定情報 (ユーザ名, ユーザID, グループID, ...)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク：使用する ・ ネットワークアドレス：222.222.222.222 ・ NIS：使用する ・ NISドメイン名：bdomain ・ タイムゾーン：日本 ・ ユーザ設定情報 (ユーザ名, ユーザID, グループID, ...)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク：使用する ・ ネットワークアドレス：123.123.123.123 ・ NIS：使用しない ・ タイムゾーン：日本 ・ ユーザ設定情報 (ユーザ名, ユーザID, グループID, ...)
ネットワーク 非使用状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク：使用しない ・ タイムゾーン：日本 ・ ユーザ設定情報 (ユーザ名, ユーザID, グループID, ...)

【図 5】

(a)



(b)



【図 6】

